

# 知恵と感動、にぎわいを生む「魅力」ある愛知をつくる

- 本県は世界的なモノづくりの一大集積地として発展してきたが、社会が成熟し、量よりも質、モノの充足より心の満足を重視する時代においては、経済力だけではなく、世界から多様な人材や価値観を受け入れ、新たな文化や価値を創造・発信するような力を格段に高め、世界に誇りうる魅力ある愛知をつくっていく必要がある。
- そうした中、国際芸術祭「あいちトリエンナーレ」を本県文化芸術の百年の軸として「芸術立県愛知」の実現につなげていくとともに、文化芸術を担う人づくりなど、地域の文化芸術のさらなる振興を図っていく。また、中国をはじめ東アジアをターゲットに、産業観光、武将観光など本県独自の観光資源の磨き上げを行いながら、広域による観光客の受入体制の確立を図っていく。
- また、地域の知的財産とも言える大学との連携を強化しながら、世界から専門的な能力を持つ人材が集まり、活躍できる地域をつくっていく。さらには、成長著しいアジア等の活力を取り込むとともに、それらの国・地域への貢献という視点も持ちながら、経済面はもとより環境、観光、人材などの面での連携や交流を促進していく。

## 38 あいちトリエンナーレの開催

- 2010年に国際芸術祭の初回となる「あいちトリエンナーレ2010」を開催し、「都市の祝祭 Arts and Cities」をテーマに、現代美術を基軸としつつ、愛知芸術文化センターの複合機能を生かし、舞踊、オペラなども併せて展開していく。
- その後も、あいちトリエンナーレを継続的に開催することにより、愛知・名古屋の文化のシンボルとして定着させるとともに、子どもたちを含めた多くの県民がすぐれた文化芸術に触れることにより、この地域の文化芸術活動を活発化させると同時に、愛知から現代美術を世界に向けて発信し、世界の文化芸術の発展に貢献していく。

### <あいちトリエンナーレ2010>

- テーマ 都市の祝祭 Arts and Cities
- 開催時期 2010年8月21日(土)～10月31日(日) [72日間]
- 会場等 愛知芸術文化センター(名古屋市東区東桜)、名古屋市美術館(名古屋市中区栄)、長者町地区(名古屋市中区錦)、会場周辺の都市空間[広小路通、オアシス21など]
- 芸術監督 建畠 哲[国立国際美術館館長]



拠点となる愛知芸術文化センター



シンボルマーク

### 🏠 主な取組

- あいちの新しい文化芸術の創造・発信の皮切りとなる「あいちトリエンナーレ2010」の開催【2010年度】
  - ・主催事業（現代美術、舞台公演、普及・教育、祝祭的文化芸術イベント）
  - ・共催事業（国際シンポジウム）
  - ・県民参加事業（祝祭ウィーク（2010.10.11～10.17）における公募共催事業、パートナーシップ事業）
- トリエンナーレの愛知・名古屋の文化のシンボルとしての定着に向けた「あいちトリエンナーレ2013」の準備・開催【2011年度～】

<関連する個別計画> ・あいち国際芸術祭基本構想（2008年3月）

## 39 文化芸術を担い、支える人づくりと活躍の場づくり

- 愛知の文化力の底上げを図っていくためには、文化芸術を担い、支える人づくりを進め、文化芸術を創造したり、鑑賞したりする人の層を厚くしていくことが重要である。そのため、文化芸術体験機会の充実を図るなど、若い時期から感性や創造力を育み、文化芸術の底辺拡大を図っていく。また、愛知芸術文化センター等を活用し、若手芸術家の育成を図るほか、文化芸術の創り手（芸術家）と受け手（住民等）をつなぐ役割を担うアートマネジメント※1人材の育成に取り組んでいく。
- さらに、県内各地域での文化や芸術によるまちづくりを支援し、都市や山村、離島など様々な地域で多様な文化交流が展開される魅力ある愛知の形成を図っていく。

### 🏠 主な取組

- あいち子ども芸術大学の理念を継承した文化芸術体験機会の拡大・充実
- 愛知県立芸術大学によるアウトリーチ※2活動の展開
- 「アーツ・チャレンジ～新進アーティストの発見inあいち～」の継続開催と愛知芸術文化センターを活用した入選者フォローアップ事業の展開による若手芸術家の活躍支援
- 文化庁等の事業を活用したアートマネジメント人材の育成
- 公立学校における文化芸術教育の検討とそれを踏まえた展開
- 陶磁資料館を世代を超えて楽しむことができる施設とするための「にぎわい創出プロジェクト」の実施【2010～2012年度】
- 県内各地域における文化芸術によるまちづくりを支援していく方策の検討



あいち子ども芸術大学による文化芸術体験



アーツ・チャレンジ～新進アーティストの発見inあいち～

- ＜関連する個別計画＞ ・あいちの教育に関するアクションプラン(2007年4月) ※2010年度改定予定  
 ・文化芸術創造あいちづくり推進方針(2007年12月)  
 ・愛知県公立大学法人中期目標(2007年4月) ※2013年4月次期中期目標策定予定  
 ・愛知県公立大学法人中期計画(2007年4月) ※2013年4月次期中期計画策定予定

**政策効果指標** 文化芸術に親しむ人の割合:50%(2015年度) 【現状】37.4%(2008年度)

## 40

## 大学との連携等による専門的な能力を持つ人材が活躍できる地域づくり

## (1) 専門的な知識や技術を持つ研究者が活躍できる場づくり

- 地域の重要な知的財産である大学は、将来を担う人材の供給源であり、その質を高めることで、全国・世界から優秀な人材を呼び込み、先端の研究成果が生み出されることによって新たな人材をひきつけるという好循環を地域としても支援していく必要がある。そのため、大学における国等の研究資金の獲得に協力するなど、特色ある研究や実践を数多く展開できるような支援を行うとともに、科学技術コーディネータなど研究開発の成果を実際のイノベーションにつなげていく上で必要な人材の育成を図っていく。

## 🔗 主な取組

- 大学や研究機関が保有する研究成果(技術シーズ)と産業界や社会のニーズとのマッチングを行い、新事業創出につなげる「科学技術コーディネータ」の育成支援
- 科学技術と人をつなげるための架け橋となる「サイエンス・コミュニケーター」人材育成支援

- ＜関連する個別計画＞ ・愛知県産業創造計画(2005年1月) ※2010年度に産業労働計画(仮称)として改定予定  
 ・第2期愛知県科学技術基本計画(2006年3月) ※2010年度に改定予定

## (2) 留学生の受け入れと活用促進

- 世界の優れた人材が集い、活躍できる地域をめざし、アジア等からの優秀な留学生を継続的にひきつけ、この地域に定着できるよう、現役留学生や帰国留学生を活用したこの地域の魅力の発信やインターンシップなどの就職支援などに取り組んでいく。

## 🔗 主な取組

- 現役留学生及び帰国留学生を活用した魅力発信・県内留学促進
- 留学生インターンシップの実施など留学生の就職支援
- 愛知留学生受入事業の実施

- ＜関連する個別計画＞ ・あいちグローバルプラン(2008年3月)  
 ・あいち多文化共生推進プラン(2008年3月)  
 ・愛知県産業創造計画(2005年1月) ※2010年度に産業労働計画(仮称)として改定予定

**政策効果指標** ・県内大学等に在籍する留学生数:15,000人(2025年) 【現状】6,471人(2009年5月現在)  
 ・日本企業に就職した留学生のうち県内企業に就職した留学生の割合:10%(2015年)  
 【現状】6.1%(2008年度)

※1.アートマネジメント: 公演等の企画・構成・制作、マーケティング、資金獲得、営業・渉外・広報など、文化の創り手(芸術家)と受け手(住民等)をつなぐ役割を担うこと。

※2.アウトリーチ: 英語で手を伸ばすことを意味し、公共機関の現場出張サービスなどの意味で使われる。福祉などの分野における地域社会への奉仕活動や、芸術文化に触れる機会の少ない人々のところへ芸術家が出向いて行う芸術活動などがある。



## 41 アジア等との経済連携交流の推進

- 中国をはじめアジア等の新興国は今後の世界経済の成長エンジンとして期待されており、アジアにおける生産ネットワークのさらなる拡大・強化や市場開拓が重要である。経済交流に関する合意を締結したベトナム、中国江蘇省との経済交流や人材交流などの一層の拡大・深化を図っていくとともに、新たな経済交流の相手国・地域についても検討を進めていく。



中国江蘇省との環境ビジネス交流の様子

### 📁 主な取組

- 江蘇省、ベトナムのサポートデスクを中心とした経済交流の推進
- 江蘇省との協力による進出企業の知的財産権保護
- 企業や人材派遣による現地での環境ビジネス交流の推進
- 県内企業のベトナム進出支援への帰国留学生の活用など人材交流活動の推進
- ベトナム、江蘇省に続く新たな経済連携交流の展開

〈関連する個別計画〉 ・愛知県産業創造計画(2005年1月) ※2010年度に産業労働計画(仮称)として改定予定

## 42 東アジアをターゲットとした魅力ある広域観光圏づくり

- 中国をはじめ成長著しい東アジアからの観光需要が今後大きく拡大していくと見込まれている。外国人観光客をひきつける愛知独自の観光資源を磨き上げていくことに加え、中部地域には、自然、歴史、産業の蓄積や文化など、わが国有数の観光資源があることから、複数の観光地間での連携やネットワーク化を図ることにより、テーマ性・ストーリー性を持った広域観光を推進するとともに、国ごとにターゲットを絞ったマーケティング活動の展開や外国人旅行者にやさしい受入体制の整備など、誘客戦略の推進と受入体制の確立を図っていく。



「中部広域観光推進協議会」主催の台湾プロモーションの様子

### 🗨️ 主な取組

- 「中部広域観光推進協議会」及び「東海地区外国人観光客誘致促進協議会」との連携による中部広域でのインバウンド※1事業の強化(ミッション派遣、招聘事業、海外観光展への出展など)
- 中国、台湾、韓国、香港の4か国・地域をターゲットにそれぞれの国・地域のニーズに応じた観光プロモーション活動の推進
- 訪日教育旅行、報奨・研修旅行の誘致活動の推進
- 主要観光地、交通結節点での多言語表示、ピクトグラム(絵文字)による観光案内表示の設置の促進
- 「産業観光」、「武将観光」の取組の充実(他県と連携した広域の旅行商品の造成支援など)

＜関連する個別計画＞ ・愛知県産業創造計画(2005年1月) ※2010年度に産業労働計画(仮称)として改定予定  
 ・愛知県観光振興基本計画(2010年3月)

**政策効果指標** 東アジア4か国・地域の宿泊者数:150万人(2015年度) 【現状】49万人(2008年度)

## 43 国際イベント・コンベンションの誘致・開催

- この地域の国際都市圏としての力をさらに高めていくためには、万博、空港の成果やこれまで蓄積してきた世界との交流の経験を最大限生かし、国際的知名度を高めるコンベンションや大きな集客力のあるイベントを継続的に開催していくことが重要である。そのため、2010年に開催する生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)やあいちトリエンナーレの開催と、それに続く国際イベント・コンベンションの誘致や開催を進めていく。



生物多様性自治体会議2009の様子

### 🗨️ 主な取組

- 生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)の開催【2010年10月】及び国際自治体会議など関連会議の開催
- あいちトリエンナーレの開催【2010年8月～10月、2013年】 [38参照]
- 日・韓・中ジュニア交流競技会の開催【2011年8月】 [15(2)参照]
- 人と自然の共生国際フォーラムの開催【毎年度開催、2013年度 記念大会(賢人会議の開催)】
- 2012年国際航空宇宙展の開催【2012年度】 [23(1)参照]

＜関連する個別計画＞ ・愛知県観光振興基本計画(2010年3月)

**政策効果指標** 参加者総数300人(うち外国人参加者50人)以上の国際会議の年間開催件数:20件(2015年) 【現状】16件(2008年)

※1.インバウンド:訪日外国人旅行のこと。